

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「ご高齢者同士が自由に自分らしく生きる」そのために主治医が往診して、ご利用者の健康管理を行っている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	「使命感を持った職務遂行」一人ひとりがご利用者の人格を尊重し人生の先輩と敬意、言葉づかいや態度に気をつけて、日々のケアに取り組んでいる。又、申し送り時に全員で理念を復唱し意識づけを行っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	その方の状態やそのときの感情に合わせて職員が手を貸してコミュニケーションをとると、ご利用者からの意見が出て交流の場ができる。ご家族の方が来所すると病気が完治した父や母に戻っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	広報が毎月配布になるので内容を読み、行事があることや公民館活動を知ることができる。時間が合わなく出席はできていない。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	民生委員の方が夏祭りや秋の神祭、花火大会等、行事の参加に誘って下さるが、長距離歩行となる為参加したことはない。地域の方が来所して下さりお話ができることを望んでいる。	○ 地域のお年寄りの方の来所を希望しお話がしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族より「何かできる事をして身体を動かすことが生きがいになっている。共同生活をしているという考えでいる」という話が出る。全員の方が生きがいを持って生活できるようサービス向上に努めている。。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	経済的虐待に関連する行為として成年後見制度や権利擁護事業がある事を話し合っているが、我がホームでは、財産を処分したり年金や預貯金をご本人に内緒でご家族が使ってしまうケースはない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「利用者の方が意味不明な事を言って不穏です」という話が出るが、スタッフは聞く姿勢、表情、態度が言葉以上に大切である事を職員会議等で話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に、家族構成・ご家族の希望・ご本人の望んでいる事・食物の好嫌など聞き取り、施設の考えを説明し理解してもらっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議には、ご家族とご利用者も出席し同じテーブルで会議に参加し意見を出していただいている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>現在の生活状況を連絡するように心がけている。写真も送付している。家族の方がホームに立ち寄って下さる。金銭はホームの中で持っていて使用する機会がないことをご家族と話し合っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の方が面会に来られた際、意見や不満を尋ねるようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月初めに会議をもうけ発表している。スタッフ全員で確認納得いくまで討論し、考え方をひとつに決め、全員が同じ対応になるよう心がけている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>退職者に臨時に来てもらい、勤務の調整につとめている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申込みの段階で次回は必ずご本人同行にさせていただき、不安・困り事をよく聞き取り調査を行っている。関係者と話し合い来所いただけない場合は、ご本人宅や病院に面会に出かけるようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族が話した事はよく聞き、他のスタッフにも申し送りサービスを一致させる。 自分たちが精いっぱい見せてもらうという気持ちを込めて話を聞くようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際ご家族に、既往歴・癖・生活習慣や家族構成などを聞き取り、サービスを考えている。ご家族にどのように過ごしてどのようにしてもらいたいかわよく話を聞くようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者やご家族からの希望をよく聞き、無理のないゆったりとした生活をしていただき、普段の生活の中で様子観察を行い、その人にあった生活をみつけながら、ホームの規則に添えるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の今までの生活や今まで過ごしてきた人生を尊重し、ご利用者の気持ちがわかる関係を結んでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族もご利用者も納得し自然と「自分の家」と思い生活を営めるよう、ご家族と相談し、一番良い方法を考えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会は自由に行っている。ご家族と一緒に外出する方もいる。体調面や健康チェックは必ず行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ゆっくりとした生活の中で、スタッフや他の人との交流を通し気づく事(その方のやさしさ、関心事、意欲的な面など)を援助の中に活かすように努力する。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	面会に来所された方には何処の家族の面会人でもなくご利用者全員と一緒に過ごしていただいている。帰りには4,5人で玄関まで見送りに出る。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報・食事・入浴・排泄・心理や気質・人格などを聞き取り、家庭環境なども確認している。また会って良く話を聞いている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前施設や病院などの生活相談員から情報をいただき、サービスの経過を継続するか把握に努める。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	健康チェック表を使い、バイタル・食事・排泄の確認をスタッフ全員が把握する。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「私の姿と気持ちシート」をスタッフで記入、話し合い、介護への願いや要望を確認している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標について評価し、達成できたかそうでないか検討し、ご家族としてはどうかご本人にとってはどうか未達成には再び目標を立てて見直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子を個別に記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者を病院に連れていく時、ご家族に連絡するが都合が悪い場合は、ご家族に了解をとり訪問介護ステーションに連絡、介護タクシーでヘルパーさん同行で通院を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方は2か月に一度来所。ゲームや歌など一緒に楽しむ。2月にネールアートのボランティアも来所。消防署は自衛消防組織があるため半年に1回訓練。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	訪問在宅マッサージのサービスを他のホームで利用しているので思案中。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その方に必要な医療と考え、微熱が続いたり体調不良があった場合、ご家族に連絡をとり、かかりつけ医に受診する手配を行っている。経過と様子の報告書を持参する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	見守りは行われなければならないが人としてのプライバシーも守らなければならないと考えている。個人情報の取り扱いには入所時にご家族に確認している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ゆったりと支援しているので、ご本人から思いや希望を話して下さることもある。先日「編み物がやってみたい。昔やっていたから…」と希望されたので編んでいたが3日間ほどでやめてしまわれた。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われることなくその方のペースに合わせて生活することを大切に、ご利用者には日常ゆったりと過ごしていただいている。どんな事を希望するか尋ねてみると「うまいものを食べてゆっくりすること」と返答が返ってきた。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	男性はひげをそる時間はご本人希望で行っている。女性のご家族が化粧水やクリームを揃えて下さって洗顔後自由に使っている。 理・美容はかかりつけの方が来て下さり希望の長さに散髪。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	目で見ておいしいと感じ、美しいと思える器に盛り付け、配色にも気配りしメニューを作る。 ご利用者も積極的にテーブル拭きや御膳並べなど手伝って下さる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒とたばこは希望がないので飲んでいない。おやつの中にはヨーグルトにきな粉を添えて毎日召し上がっていただいている。その他にお菓子類。ふかし芋は皆さんに好評。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	しぐさやジェスチャーで教えて下さる方もいる。毎日の排泄チェックを行うことで排泄パターンがわかり失敗をする方はいない。おむつ着用者もいない。全員がトイレまで行き排泄する。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝のバイタルを確認、表情・食事量を確認し、事前にご本人より了解をいただく。室内は暖房で暖め、シャワーチェアへの具合を見て、湯の温度は39℃～42℃位でゆっくりと安心して入浴をして頂くよう気配りをしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の食事量をしっかり摂っていたか。リハビリのためのラジオ体操・レクリエーションにご自分から進んで参加できたか。排泄はどうしたか。一日を満足と思える状態で休んで頂くように心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「役割」…できる方もあれば、どうにしていればよいか混乱し戸惑ったり落胆する方もいらっしゃるの、手伝って下さる方たちをサポートするように伝えている。「楽しみ事」…季節感を味わえる食事の提供をしている。「気晴らし」…月一度は必ず皆さんでドライブに出かける。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度は所持しているご利用者もいるが、1000円以上所持している方はいない。親戚の方に頂く場合もあるが、本人の意思でご家族に預けている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい日には戸外に出てベンチに腰かけて花摘みや散歩を楽しんでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月一度は観梅、桜花見、花菖蒲花見、ぶどう狩り、梨狩りなど外出している。10月の林檎狩りはご家族と共に観光バスで遠出をする。りんごのもぎ取りやご家族一緒に味わう昼食時には皆さんいきいきなさっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員が頼まれてつないでいる。遠くに嫁いだ娘さんより毎月絵手紙が届く方もいる。お正月の年賀状は皆さんの手作りでご家族や大切な方に書いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	近所に嫁いだ娘さんたちがホームで待ち合わせているご家族もいる。又、ご利用者は他のご家族であっても会話の中に混じり誰の家族という隔たりなく談話している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動面や言動面で適切にかかわり、その方を理解することに努めている。職員の精神的な健康管理も、身体拘束をしないケアにつながっていると考ええる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	認知症の症状の安全管理のことから考えると鍵は必要だと思う。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室の中は死角になってしまうのでドアを開けておきたいが、プライバシーを守るという意味で閉めてはいるが、時々安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	塩素系洗剤等は危険なため、目にふれないよう戸棚の中に入れて保管している。目薬や皮膚に湿布する軟膏は近くに置いてあるが、直接見えない場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎朝理念を読んで安全確認を行っている。転倒は手薄な早朝に起こりがち。ご利用者の癖や状態を知る事が必要と考え、勉強会を開いている。誤薬にも注意をして直接袋から服用するのではなく一度他の入れ物に入れることで注意する。朝昼夕を薬に印を入れている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の方をお願いして実施。	○	消防署の訓練として応急処置や救急手当などに取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の避難はご利用者が安全に避難できるよう半年に一度消防署の指導を受けて誘導できるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	運営推進会議等でご家族を混ぜ相談していきたい。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	健康チェックを朝夕行い、食事量の確認をして、体調の変化に気配りをしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の方がどんな薬を服用しているか処方箋を区分けしている。用量についても誤りのないように慎重に行い、袋から出して手のひらに乗せて飲み込むまで見守りを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつにヨーグルトを摂取。また、食事も野菜を使ったメニューで消化の良いものを使っている。3時にはラジオ体操や歩行訓練を行い身体を動かしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時口の中をブラシでマッサージ、うがい薬で口の中を流し義歯装着。洗い残しや上手に義歯が入れない場合は介助している。夜間は預かり、洗浄液につけておく。毎食後できる限りご自分でしていただき、洗い残しや理解できない方には介助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はご自分のペースでゆっくり召し上がっていただいている。摂取量チェックは毎食後行っている。季節を味わえる食材を取り入れバランス良く用意している。コーヒーが好みの方には飲用していただき、湯あがりにはポカリスエットを飲んでいただいている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染経路をたつよう手洗い、うがい施行を行っている。手洗いはせっけんで良く洗い流すようにしている。床はビュラックを薄めた液で拭き、取っ手やテーブルなどもビュラックで拭きこまめに掃除をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒やノロウイルスに注意して新鮮な食材を購入している。調理器具の消毒、三か月に一度の検便施行。面会の方のお土産なども確認し管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前がスロープになっていて段差がなく、スロープに平行して手すりもついているので、庭に出るまでつかまっていける。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファのあるホールや畳の間がくつろぎの場所になっている。浴室はゆったりとリラックスして入浴できるよう広々としている。トイレも車いすで入れる。食堂は対面式になっているので厨房の中からも見守りができるし、ホールも食欲をそそる香りに包まれる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が見渡せる大きな窓がホール前にあり、窓際にベンチを用意して遠くの山々を眺め外の景色を楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	最近出かけた時のスナップ写真を飾ったり、ご家族がカレンダーを持ってきて天気を毎日書きこんでいる方もいらっしゃる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の時間に換気をし11時頃まで細く開けておく。風のある日は閉める。温度と湿度計をいつも気にして調節している。湿度の足りない日は霧吹きを行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットからの立ち上がりは、ベット柵につかまり安全に立ち上がれるよう見守りを行っている。トイレには介助カバーと手すりが取り付けられており、つかまって安定した形で使用、見守りを行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	排泄時間を知るために時間で声掛け誘導をし、排泄パターンを確認することにより失敗を防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にはベンチを広げて庭を散歩したり外気浴を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「健康は食から」と会議の時に社長からも指導があるが、季節の食材を多く取り入れて彩りよくバランスの良い食事作りに努めている。温かいものは温かいうちに、器や盛り付けにも気を使い美味しい演出をして、見ても美しく食べても美味しい満足感いっぱいの食事を作っている。